

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 16 日現在

機関番号：13901

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520277

研究課題名(和文)ヘミングウェイのキューバ・コネクション フィンカ・ビヒア資料と政治性

研究課題名(英文)Hemingway's Cuba Connection: Finca Vigia Material and Its Political Meaning

研究代表者

松下 千雅子(Matsushita, Chikako)

名古屋大学・国際言語文化研究科・准教授

研究者番号：90273200

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、キューバで人生の三分の一を過ごしたノーベル賞作家ヘミングウェイの現地での生活、創作活動、政治活動を、蔵書リサーチと現地インタビューにより明らかにすることを目的とした。2012年度と2013年度に各1回、キューバでの現地調査を行い、調査の途中経過をキューバで行われた国際学会(2013)で発表した。現地調査では、ヘミングウェイの蔵書リサーチを行い、自筆書き込みの確認とカメラ撮影による資料の保存を行った。さらにフィンカ・ビヒアのヘミングウェイ博物館館長であるローザ氏と、生前のヘミングウェイと交流があったフィーコ氏とカユコ氏にインタビュー調査を行った。

研究成果の概要(英文)：This project explores the Nobel Prize Writer Ernest Hemingway's life in Cuba, where he had spent one third of his life, by examining his book collection left in Cuba and conducting several interviews with people including those who knew Hemingway personally. In 2012 and 2013, I made a research in Cuba and read a paper in an International Conference (2013). When examining the book collection, I took photographs of his writings in the margins and created photo database. I also interviewed Ada Rosa, the director of Hemingway Museum, Mr. Fico and Mr. Cayuco, who knew Hemingway when he was alive.

研究分野：アメリカ文学

キーワード：ヘミングウェイ キューバ

1. 研究開始当初の背景

2002年、キューバのヘミングウェイ邸フィンカ・ビヒアの地下室に埋もれていたヘミングウェイの原稿、手紙、メモ、その他の書き物が発見され、世界中に大きな衝撃を与えたことは記憶に新しい。アメリカ合衆国とキューバとの合意のもとで約3,000点の資料についてボストンのJFK図書館で電子アーカイブ化が進められており、これらにアクセス可能となれば、これまで謎が多かったキューバ時代のヘミングウェイにアプローチするための重要な手がかりとなることは間違いないが、JFK図書館での資料の全面的な公開はまだ実現していない。

ヘミングウェイは1937年にスペイン内戦取材した後、三番目の妻マーサ・ゲルホーンとともにキューバのハバナに移り住み、1939年から1961年までの22年間をハバナの郊外フィンカ・ビヒアで過ごした。当時のキューバ周辺は、ドミニカ共和国の革命運動、親米派のフルヘンシオ・バチスタによる軍事クーデターと独裁政治、フィデル・カストロの反乱とキューバ革命、冷戦下での共産主義国家樹立など、植民地的政治闘争の最中であつた。FBIの機密文書によると、キューバ革命に際してヘミングウェイは革命政府を支持し、自らを「キューバ人」と言い、キューバの国旗にキスをしたとされている(高野泰志著「ヘミングウェイとFBIファイル」今村楯夫編『アーネスト・ヘミングウェイの文学』(ミネルヴァ、2006年)。これはノーベル賞を受賞したアメリカの人気作家アーネスト・ヘミングウェイの、これまでにアメリカで出版された幾多の伝記ではほとんど触れられていない側面である。

従来の伝記では、キューバにおけるヘミングウェイの活動は、ピラール号を使った沿岸パトロールでさえ、英雄伝説を構築するために一役買ってはいるが、政治的な意図も影響力もないものとして片付けられてきた。ところが「政治」には無関係とされてきたヘミングウェイ像に修正を迫るきっかけとなったFBIファイルには、1942年から1974年という長期間にわたり、FBIがヘミングウェイを共産主義信奉者の疑いがある人物として監視していた様子が記録されていた。そのファイルの公開により、1950年代半ば頃から自分がFBIに狙われていると訴えていたヘミングウェイの不安が単なる妄想ではなかったことが、証明された。FBIファイルに関しては、2004年に日本の若手ヘミングウェイ研究者20名による解読プロジェクトチームが立ち上がり、その成果は高野泰志著「ヘミングウェイとFBIファイル」で詳しく報告されている。またプロジェクトの成果は国際ヘミングウェイ学会で発表され、国際的にも極めて高い評価を受けた。しかし、解読チーム

は、FBI資料の内容のほとんどが伝聞情報によるものであり、信憑性は未だ不透明であると結論しており、このファイルだけでキューバ時代のヘミングウェイの政治的位置を正しく導き出すことはできない。他方、キューバで発見された資料の中には、他の書類からは区別され暗号化されたテキストが含まれており、とりわけ第二次世界大戦下でキューバ周辺を巡航していたドイツの潜水艦に関する諜報活動を記録した暗号ファイルは、ヘミングウェイの政治的な活動の一端を紐解く重要な糸口になるものと思われる。このことを踏まえ、本研究では、日本でのFBIファイル解読の成果をもとに、FBIファイルとキューバで発見された資料を合わせて精査することで、ヘミングウェイの政治的スタンスをより鮮明にし、それに基づくテキスト解釈を行う。

2. 研究の目的

本研究は、JFK図書館で未公開となっているこれらの資料をキューバで調査し、キューバで人生の三分の一を過ごしたノーベル賞作家の現地での生活、創作活動、政治活動を、蔵書リサーチと現地インタビューにより明らかにすることを目的とした。

本研究では、はじめにフィンカ・ビヒアの資料から、キューバ時代のヘミングウェイ像を、より政治的に描き直す。そのため、本研究の大部分は、資料の収集と解読にあてられる。なかでも注目すべきは、第二次世界大戦中にキューバ沿岸を巡航していたドイツの潜水艦に関する調査結果を、ヘミングウェイ自身が安全の為に暗号化して書き残したテキストである。このテキストは、これまで完全に未公開のものであり、それを精査することによって、ヘミングウェイがハバナのアメリカ大使館のために行っていた諜報活動とピラール号を使った沿岸パトロールに関する詳細を明らかにすることができる。と期待される。

第二に、メタ批評的な試みとして、カール・ベーカーによる伝記をはじめとする従来型の伝記を研究対象に、文学研究において「非政治的」なヘミングウェイ像が構築された歴史的・政治的背景を探る。これまでにアメリカで出版された伝記を、出版時のアメリカ合衆国とキューバをはじめとする共産主義諸国との関係のなかで捉え直し、文学研究に潜む政治性を浮き彫りにしたい。

さらに第三の目的として、キューバ・コネクションを探ることにより導きだされる「政治的」なヘミングウェイ像が、キューバ時代に書かれた文学テキストに対するこれまでの解釈にどのような変更を迫るのかを考えたい。扱うべきテキストは、共産党からの強い批判を受けた『誰がために鐘は

鳴る』キューバを舞台にした左翼系テキスト『持つと持たぬと』、死後出版となった『海流の中の島々』などが挙げられる。

3. 研究の方法

本研究は次の手順を進める。

1. ヘミングウェイがキューバのフィンカ・ビヒア邸に残した資料を、ハバナのヘミングウェイ博物館またはボストンのジョン・F・ケネディケネディ図書館で閲覧し、必要部分を文献複写する。

2. 死後出版された小説『海流の中の島々』のオリジナル原稿はジョン・F・ケネディ図書館に保管されているので、出版時に変更または削除された箇所を、コンピューター入力する。

3. 上記の資料をもとに、これまでの伝記に書かれていないキューバ時代のヘミングウェイ像を明らかにし、より政治的なテキスト読解に繋げる。

4. 研究成果を国際ヘミングウェイ学会、Mandel 氏編集の研究書、研究成果報告書等で公表する。

4. 研究成果

本研究では、2012年度と2013年度に各1回、キューバでの現地調査を行い、調査の途中経過をキューバで行われた国際学会(2013)で発表した。現地調査では、2002年に発掘された資料が博物館とは別の政府機関で保存されており、特別な許可なしに閲覧ができないことがわかった。また米国JFK図書館でも、閲覧に制限がありアプローチすることが困難であった。したがって、本研究の調査対象は博物館所蔵の資料に限定することとした。実際には、ヘミングウェイの蔵書のなかで動物行動学に関するものを中心にリサーチを行い、自筆書き込みの確認とカメラ撮影による資料の保存を行った。さらにフィンカ・ビヒアのヘミングウェイ博物館館長であるローザ氏と、生前のヘミングウェイと交流があったオスカー(=カユコ)・プラス氏、アルベルト(=フィーコ)・ラモス氏にインタビュー調査を行った。最終年度にあたる2014年度は、主として2013年に行ったインタビュー調査の結果を踏まえ、とりわけ動物行動学へのヘミングウェイの関心に焦点をあてて論文1本を執筆し(共著として出版予定)、国内学会での発表を1回行った。

以下、研究成果を蔵書リサーチとインタビュー調査にわけて記述する。

蔵書リサーチ

フィンカ・ビヒアのヘミングウェイ邸は、ほとんどすべての部屋の壁が書棚になっており、数千点の書籍が当時のまま保管されて

いる。これらの本は新刊、古本のどちらもヘミングウェイ夫妻が買い集めたものが中心だが、なかにはゲストが持ってきて置いて帰ったものも含まれているし、ゲストが持ち帰り、そのまま行方不明になったものもある。ヘミングウェイ邸は、ゲストたちに本の貸し出しを行う図書館のような役割も果たしていたと思われる。フィンカ・ビヒアに限らずキーウエストも含めたヘミングウェイの蔵書タイトルについてはジェイムズ・D・ブラッシュとジョセフ・シグマンが詳しく調査を行っており、1981年に出版された『ヘミングウェイの図書館』の電子版が現在ではJFK図書館のアーカイブで公開されている(Brasch and Sigman)。本研究では、そこから動物行動学に関する書籍を検索し、フィクションと思われるものを除いたリストを作成の上、自筆書き込みの確認とカメラ撮影による資料の保存を行った。

インタビュー調査

蔵書リサーチに加えて、アダ・ローザ博物館館長、オスカー(=カユコ)・プラス氏、アルベルト(=フィーコ)・ラモス氏にインタビューを行った。プラス氏とラモス氏への聞き取り調査は、本人の記憶に頼る部分が多く、対象者が高齢であり、五十年以上前の記憶に頼らざるを得ないことから、証言内容が正確であるという確証はない。しかし、ヘミングウェイを直接知っている人物が現在では少なくなってきたこと、本研究で直接インタビューすることができたことは大きな収穫だったといえる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 0件)

〔学会発表〕(計 4件)

Matsushita, Chikako. "Hemingway's Life in Cuba." American Literature/Culture in a Global Context. March 2014. Nagoya University.

Tanimoto, Chikako. "Hemingway and His Beloved Dogs." Coloquio Internatioal. June 2013. Habana, Cuba
柳沢秀郎、谷本千雅子、越川芳明「キューバのヘミングウェイ」日本ヘミングウェイ協会全国大会シンポジウム. 2014年12月13日. 関西学院大学

山本洋平、谷本千雅子、中村嘉雄、塚田幸光。「ヘミングウェイと動物表象」日本ヘミングウェイ協会ワークショップ. 2012年5月26日. 専修大学生田キャンパス.

〔図書〕(計 1件)

谷本千雅子. 「フィンカ・ビヒアの犬と猫」『ヘミングウェイ研究書(仮)』.2015年出版予定.

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

松下 千雅子 (MATSUSHITA, Chikako)
名古屋大学・国際言語文化研究科・准教授
研究者番号：90273200

(2)研究分担者

()

研究者番号：

(3)連携研究者

()

研究者番号：